

# 日本内分泌外科学会

*Japan Association of Endocrine Surgeons*

*News Letter* September 2008, No.3

## 日本内分泌外科学会

理事長 高見 博

事務局：〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1  
帝京大学医学部外科 高見教授室  
TEL. 03-3964-1227 FAX. 03-3962-2128  
<http://jaes.umin.ac.jp/>

- ◆ 日本内分泌外科学会理事長のご挨拶
- ◆ 第20回 日本内分泌外科学会総会を終えて
- ◆ 第21回 日本内分泌外科学会総会を開催するにあたって
- ◆ 平成19年度 日本内分泌外科学会賞を受賞して
- ◆ 甲状腺癌のガイドライン
- ◆ 随筆
- ◆ 専門医制度委員会からのお知らせ
- ◆ 第20回 日本内分泌外科学会評議員会議事録

## — ■ 日本内分泌外科学会理事長のご挨拶



高見 博  
( 帝京大学医学部外科 )

第20回日本内分泌外科学会総会は本年( 2008年 )6月に東北大学外科教授 佐々木巖会長の下、成功裡に終了しました。今回は、本学会が設立されて20回目を迎える記念すべき会であり、佐々木会長の穏やかかつ、的確な運営能力で大変に有意義な総会であったと印象づけられました。とりわけ、園尾委員長を中心に「内分泌・甲状腺外科専門医制度」( 園尾博司委員長、高見 博副委員長 )が、発足の至りになりました。また、「甲状腺腫瘍診療ガイドライン」作成も吉田明委員長、岡本高宏副委員長の下、総会后ではありますが、正式に発足いたしました。これは日本型のガイドラインではありますが、日本の現在の医療事情を踏まえ可能な限りの最善のものが出来ると考えております。これらについては、「日本甲状腺外科学会」と歩調を合わせ、この分野の診療体系を明確にし、その発展に寄与していくのが進むべき道であると考えております。

現在の日本の医療社会は荒廃と改革の狭間にいます。内分泌外科は其中で決して恵まれた地位にいるとは思われませんが、物の大小に価値観の違いがないのと同じように、きちんとした理念を持ち、診療・研究に従事すれば必ず新しい夜明けが来ると確信しております。

会員の皆様には、さらに本学会の発展のために努力されると共に、愛情と熱意を持って叱咤激励していただきたく存じます。

## 第20回 日本内分泌外科学会総会を終えて

東北大学大学院・生体調節外科学分野

教授 佐々木 巖



第20回総会は、仙台市の江陽グランドホテルにおいて2008年6月12日(木)、13日(金)の2日間開催され、盛会のうちに終了しました。みちのく仙台での本学会開催は初めてのことで、私どもに記念の総会を担当させて頂き、多くの皆様の支援と御協力を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。演題総数は164題、参加人数は約350人でした。本学会は甲状腺・副甲状腺外科、泌尿器科、乳腺外科、消化器外科など多くの専門領域の外科医が一堂に会する学際的な学会として発展しています。今後はその道の専門家がさらに専門分野を進展させると同時にコラボレーションを図り、新しい医学の開拓・発展を期することも大きな課題と考えました。総会プログラム作成に際して評議員へのアンケート調査をさせて頂きましたところ多くの貴重なご提案を頂きました。初日の午後特別企画「日本の内分泌外科発展のために」(司会:高見先生と杉谷先生)と今村正之先生の特別記念講演「膵内分泌腫瘍 治療の進歩と課題」を、2日目の午後高見理事長の20周年記念理事長講演「内分泌外科の現状と将来」が生まれ、素晴らしいご講演を賜り記念の総会を盛り上げて頂きました。G Randolph先生(米国MGHから来日)の“ Intra-operative Neural Monitoring ”の講演も大変興味深く拝聴しました。また、発表とは別に歴代会長に願ひして本学会の歴史を飾る写真展も展示しました。本学会の生い立ちと軌跡を振り返ることが出来、貴重な資料を提供いただいた多くの先生に深く感謝申し上げます。シンポジウムは乳ガン、膵内分泌腫瘍、甲状腺癌、原発性アルドステロン症に関する4題が、要望演題は難渋した症例・示唆的症例、膵内分泌腫瘍、縦隔内甲状腺腫の診断治療が、また口頭発表およびポスター発表においても常に熱心な討論がなされました。

本総会では、これまで園尾委員長を中心に専門医制度委員会で議論されてきた「内分泌外科専門医制度」の大要が示されて発足を正式決定し、今後急いで細部を決めていくことになりました。本学会は本総会を契機に新しい発展への道を歩み出したと考えられます。若干の修正を加えつつ立派な内分泌外科専門医制度が定着することを期待したいと思います。

次回は、2009年5月29日(金)30日(土)に園尾先生(川崎医大外科)を会長として、岡山で開催予定ですので、元気な皆様と再会できることを楽しみにしております。

## 第21回 日本内分泌外科学会総会を開催するにあたって

会長 園尾 博司

(川崎医科大学乳腺甲状腺外科 教授)



真夏を迎え、ここ岡山の地でも後楽園の木々は緑濃く、蝉の鳴き声が賑やかです。この度、第21回日本内分泌外科学会総会を岡山市で開催させて頂くことを大変光栄に存じております。当科が本学会を開催させて頂きますのは、今回が2回目で、18年前の1990年に先代の原田種一教授が第2回の本学会を開催しており、感慨もひとしおであります。

この1年間、学会活性化の手段として、専門医制度設立に力を入れてきました。理事および委員の皆様のご協力のもと、本年6月の本学会で設立され、間もなく暫定専門医の申請受付が始まります。来年の学会は、新年早々誕生した暫定専門医が参加する記念すべき学会となることを期待しています。

さて、第21回本学会は、2009年5月29日(金)、30日(土)の2日間、岡山市の岡山コンベンションセンター( JR岡山駅近隣 )で開催させて頂きます。

学会のテーマは、「新たな挑戦と標準化への歩み」としました。すなわち、「新たな挑戦」として、「前立腺癌の治療～新しい展開～」、「MENおよび副腎疾患の診療をめぐる諸問題」、「内照射抵抗性の転移性甲状腺乳頭癌」、「甲状腺未分化癌への挑戦」をシンポジウムで取り上げ、先生方が直面している問題点を最先端研究から突破口を見出せればと思っています。また、「標準化への歩み」として、今後1年をかけて「甲状腺癌に関するガイドライン」が日本甲状腺外科学会と共同で作成される予定ですので、その発表ができる場になればと期待しております。さらにエキスパートを招聘して「骨代謝」、「甲状腺ホルモン産生」などの基礎的な講演のほか、「超音波診断」、「微小甲状腺乳頭癌」、「副腎疾患の診断と治療」、「進行・再発前立腺癌の治療」などの基本を学ぶ教育セミナーを予定しています。これらのプログラム案は、今後、理事、評議員の先生方と相談の上、最終決定したいと思います。

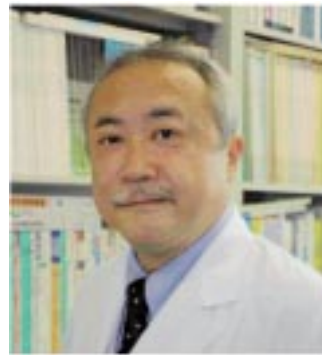
岡山は、「適塾」を開いた緒方洪庵の誕生の地であり、武士の支配する江戸時代に建てられた日本最古の庶民学校「閑谷学校」( 県重要文化財 )などがあり、古来教育県として知られています。また、気候がよく「晴れの国・岡山」と呼ばれており、特産のマスカット、ピオーネ、白桃などのフルーツ王国です。岡山市には岡山城や日本3名園のひとつである後楽園があり、隣接の総社市の五重塔、古墳群などの吉備路めぐり、倉敷市の美観地区、少し足を延ばせば瀬戸大橋や鷲羽山からの美しい備前瀬戸の眺めが楽しめます。また、備前焼の器に盛られた瀬戸内の新鮮な海の幸を肴に、米どころ岡山の地酒を酌み交わし、懇親を深めて頂きたいと思っております。会員の先生方のご協力を得て、本学会が成功するように全力を尽くす所存であります。多くの先生方のご来岡を心よりお願い申し上げます。

末筆ながら会員の先生方の益々のご活躍とご発展をお祈り致します。

## 平成19年度 日本内分泌外科学会賞を受賞して

公立大学法人福島県立医科大学 乳腺内分泌甲状腺外科

鈴木 眞一



この度は、平成19年度日本内分泌外科学会賞をいただきありがとうございました。私どもが行ってまいりました甲状腺・副甲状腺疾患に対する一連の診療、研究に対しご評価をいただいたことに感謝しております。私は昭和58年に福島県立医科大学第二外科に入局し、25年になりますが、故遠藤辰一郎名誉教授、阿部力哉名誉教授、そして竹之下誠一 現附属病院長の3人の教授に師事し、甲状腺、副甲状腺、副腎を中心とした内分泌外科学に診療、研究、教育に携わって参りました。当然のことではありますが、このような榮譽をいただけたことに対し3教授にあらためて感謝申しあげる次第であります。また、入局から現在に至るまでお世話になった医局、同門の諸先輩、同僚、後輩そして医局のすべてのスタッフの皆様にも感謝申し上げます。

今回はとくに私どもがいままで行ってきた甲状腺、副甲状腺さらに多発性内分泌腺腫症(以下MEN)の診療、研究について述べさせて頂きました。

頸部内視鏡手術としては、1996年Gagnerらの報告に触発され、1997年に動物実験結果からまず頸部小切開を用いた内視鏡下副甲状腺腫瘍切除術を施行し、その後局在診断をより確実にし剥離面積をより少なくする目的で、Tc-MIBIを用いたラジオガイド下内視鏡(補助)下副甲状腺切除(RGVAP)を行い、頸部に1.5cmの切開で短時間に切除可能となりました。その後、甲状腺切除に関しては、腋窩乳輪アプローチによる内視鏡下甲状腺切除術(AAA-ETS)を行い、甲状腺良性腫瘍およびパセドウ病にたいし施行し、RGVAPは低侵襲性をAAA-ETSでは整容性を重視した術式となっております。

甲状腺乳頭癌においてBRAF遺伝子の変異が、濾胞癌ではNRASの変異が発癌に関与しているという結果を報告致しました。さらに甲状腺癌の診断においてテロメラゼ活性、hTERT mRNAが有用であり、とくに濾胞癌診断でも有用であることを示しました。hTERTとともにFB-21、Rasp21、PCNA、HBME1、Galectin-3もすべて濾胞癌診断に有用ではありましたが、いずれもoverlapする症例が存在しておりました。濾胞腺腫を大濾胞と小濾胞性腫瘍に大別すると、上記のマーカーの陽性率はいずれも濾胞癌、小濾胞腺腫、大濾胞腺腫の順であり、小濾胞性腫瘍は濾胞癌への前癌病変と思われました。

また、Elastographyは甲状腺癌と良性腫瘍の鑑別に有用であり、とくに術前の濾胞癌診断には極めて有用であることがわかりました。

MEN症例や極めて希なFIHP家系にたいする、遺伝子診断やカウンセリングおよび下垂体以外の当科での幅広い治療経験につきご報告致しました。

以上のように、甲状腺副甲状腺疾患につき幅広く研究した成果をご報告させて頂きました。今後とも内分泌外科の診療、研究、教育に鋭意努力する所存です。どうかご指導のほどよろしくお願い致します。

## 随筆

### 甲状腺癌のガイドライン

神奈川県立がんセンター 乳腺甲状腺外科

教授 吉田 明

仙台での内分泌外科学会で内分泌・甲状腺外科の専門制度が承認され、いよいよ暫定専門医が来年より誕生する。長い間の懸案事項であっただけにこの制度が定着し無事発展していくことを祈りたい。甲状腺外科に携わるものにとってもう一つの懸案事項は甲状腺癌のガイドライン作りである。ガイドラインは治療の標準化を目指しEBMを基礎として作られるべきものであるが、甲状腺の代表的な癌である乳頭癌は欧米をはじめとする諸外国と治療方針が異なるため、わが国独自のガイドラインが必要となる。この癌の発育が非常に遅いため信頼のおけるEBMは少なく、ガイドラインの作成には代表的な施設の成績を参考すると共に、経験豊富な先生方の意見も取り入れることが必要である。また放射線科医や病理医の参加も当然必要であろう。さらに経過の長いこの癌では手術成績だけではなく、合併症の頻度なども考慮して総合的な判断を下すべきであろう。そのためにはしっかりとした体制を整えどの様にしてガイドライン作りを進めていくかを十分に議論しておくことが肝心である。出来上がったガイドラインは不完全なものであるかも知れないが一つの基準を示すことになりその社会的な影響は少なくない。今年の内分泌外科学会では「放射性ヨード治療施設の不足と日本型甲状腺癌治療ガイドラインの設定」と題するシンポジウムが行われ熱心な議論が続いた。印象的であったのは適応となる患者さんが少ないため廃止あるいは休眠しているRI施設があるということである。ガイドラインの作り方によっては、このような不合理を解消できるかも知れない。また示された基準を是正すべく行われる臨床研究は関連学会の活性化にも通じるであろう。専門医制度とガイドラインの制定は共有する部分が多く、日本甲状腺外科学会と歩調を合わせ、甲状腺外科の診療体系を整備し、発展に寄与できると考えている。

### 東京医科大学霞ヶ浦病院 乳腺・甲状腺外科センターご紹介

東京医科大学霞ヶ浦病院 乳腺科

教授 藤森 実



この度、平成20年4月1日より東京医科大学霞ヶ浦病院乳腺科教授を拝命いたしました。同時に、病院内に新しく乳腺・甲状腺外科センターが発足しました。東京医科大学霞ヶ浦病院は、茨城県土浦市の近郊にある創立60周年の病院です。関東平野の霞ヶ浦近くにあり、前任地の信州大学がある、松本市から見た北アルプスに比べると、丘のような筑波山を遠くに望む広い平野に建つ大学病院です。

外科学全体から見ると、特に甲状腺外科分野はminorと思われがちですが、ご存じのように患者数は大変に多い疾患です。医学部学生教育においても、この分野に関心を持って将来内分泌外科専門医を志す医師を1人でも多く育てていきたいと思えます。また、地域の期待に応えるべく、本当に患者さんを中心に考えた医療を遂行することにより確かな信頼を得て、より多くの患者さんの医療に貢献してまいりたい所存です。筑波大学病院に地理的にも近いので、乳腺甲状腺内分泌外科、原 尚人教授の教室ともさらに連携を深めたいと考えております。

今後とも、何卒よろしく願い申し上げます。



# 専門医制度委員会からのお知らせ

専門医制度委員会委員長 園尾博司

仲秋の候、先生方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本年6月に開催された第20回の本学会評議員会で専門医制度が承認され、6月13日付で発足いたしました。本年度から平成24年度までの5年を暫定期間として専門医(暫定)を認定し、平成25年から正規の専門医の認定を開始する予定です。本年度は、8月1日から10月31日(必着)まで暫定専門医の申請を受付けます。対象者は、平成10年までに日本国の医師免許を取得した3年以上の本学会会員で、専門医制度暫定規則および暫定規則施行細則に示す基準を満たす医師です(下記)。

申し込みは、本学会の専門医制度のホームページより申請に必要な事項(暫定規則第6条および施行細則第6条参照)を確認し、申請用紙はダウンロードして、学会事務局まで送付して下さい。なお、申請手数料を下記の口座に振り込み、振込み用紙のコピーを同封して下さい。

ご質問のある方は、メール(jaes@med.teikyo-u.ac.jp)で事務局にお問い合わせください。電話によるご質問は事務局で対応できませんので、あらかじめご了承ください。

送付先 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

## 日本内分泌外科学会事務局

帝京大学医学部外科 高見 博 教授室

TEL: 03-3964-1227、FAX: 03-3962-2128

簡易書留で送付してください。

手数料振込み口座: 口座名

「内分泌外科専門医制度委員会 代表 高見 博」

金融機関

三菱東京UFJ銀行 帝京大病院(出)

口座番号 (普) 0004704

## 記

### 暫定規則施行細則第5条

暫定規則による専門医の選定を申請する者は、次の各号の資格をすべて満足するものであることを要する。

平成10年までに日本国の医師免許を取得し、かつ、医師としての人格および見識を備えている者であること。

学会認定医制度協議会の定める基本的領域診療科の認定医、専門医または同等の経歴を有すること。

3年以上連続して本学会の会員であること。

内分泌外科疾患の診療に従事している者であること。

内分泌外科疾患に関する診療業績および研究業績があること。

診療業績は術者(手術の主な部分を担当したものに限る)または指導者としての症例数を甲状腺+副甲状腺疾患100例あるいは副甲状腺疾患のみの場合は50例、副腎疾患のみの場合は20例とする。

研究業績は、研究業績点数表に基づき30点以上とする。ただし、この業績は資格認定委員会の審査によって適当であると認められた医学雑誌または学術集会上に掲載されたものでなければならない。論文1編は学会機関誌掲載のものが望ましい。

研究業績は、下記の研究業績点数表に基づき30点以上とする。ただし、この業績は資格認定委員会の審査によって適当であると認められた医学雑誌または学術集会上に掲載されたものでなければならない。

### 研究業績点数表

	欧文論文	機関誌「内分泌外科」論文	日本語論文	
筆頭著者	10	8	6	
共著者	3	2	1	
	国際学会	日本内分泌外科学会 日本甲状腺外科学会	国内関連学会・研究会	座長 (日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会に限る)
筆頭発表者	4	3	2	3
共同発表者	1	1	1	

\*甲状腺外科学会のセミナー参加は3点とする。

# 第20回 日本内分泌外科学会評議員会議事録

(於:平成20年6月11日(水)15時30分～ せんだいメディアテーク 7階「スタジオシアター」)

審議に先立ち、高見理事長より議事録署名人として佐々木 巖理事、園尾 博司理事が選出された。

## 【報告事項】

### 1) 第43回理事会議事録承認

平成20年3月に開催された理事会議事録において、高見理事長より一部訂正箇所の報告があり、承認された。

### 2) 会員状況報告

平成20年6月10日現在の会員数は次の通りである。名誉会員27名、特別会員55名、評議員185名、正会員795名(総会員数1062名)

### 3) 第20回総会について

佐々木 巖会長より今総会開催についての報告があった。

### 4) 平成19年度会計決算報告

舟橋監事、村井監事の確認署名を受けた会計報告が高見理事長より報告され承認された。

### 5) 理事長推薦による理事の選出

高見理事長より今年1月に行われた役員選挙投票結果により当選した理事・監事の紹介があった。また、推薦理事3名、郡 健二郎、佐々木 巖、杉谷 巖(敬称略)の発表があり承認された。

### 6) 評議員再任の承認

第43回理事会(今年3月)において承認された平成20年度再任評議員候補者92名の報告があり正式に承認された。

### 7) 評議員新任の承認

第43回理事会(今年3月)にて推薦・承認された申請者3名が正式に承認された。五十嵐 健人、小笠原 聡、増岡 秀次(敬称略)今回(第44回)の理事会にて推薦・承認の新規申請者6名の承認がなされた。大野 元嗣、辻畑 正雄、西村 和郎、野々村 祝夫、福成 信博、和田 修幸(敬称略)

### 8) 平成19年度学会賞

平成19年度学会賞受賞者は鈴木真一先生(福島県立医科大学)で、6月12日(木)総会で講演を行って戴く旨確認した。研究奨励賞の応募はなかった。

### 9) 平成19年度最優秀論文賞

最優秀論文賞受賞者は寺山百合子先生((財)鷹揚郷腎研究所)の「透析患者における副甲状腺全摘手術後の副甲状腺ホルモンとオステオカルシンについて」である。

### 10) 各委員会報告

内分泌外科学会専門医制度委員会について園尾委員長より規則・細則について報告があった。内分泌・甲状腺外科専門医試験作成委員会(清水委員長が欠席の為、高見理事長より明日6月12日(木)7時45分から委員会がある旨報告があった。)資格認定委員会(吉田 明委員長)は11名、施設認定委員会(岩瀬克己委員長)は地域別各地区4名設置するとの報告があった。

### 11) その他

松田理事より褐色細胞腫・悪性褐色細胞腫実態調査について資料をもとに説明があった。

## 【審議事項】

### 1) 次期副会長の選出

松田 公志先生(関西医科大学泌尿器科)より立候補表明があり承認された。

### 2) 名誉会員・特別会員の承認の確認

第43回理事会において承認された名誉会員、特別会員5名が承認された。名誉会員:村井 勝(監事)、特別会員:上田昭一、河西信勝、金武 洋、多米英介(敬称略)

### 3) 平成20年度事業計画

1 第21回総会の準備状況  
第21回会長の園尾 博司理事より、平成21年5月29日(金)-5月30日(土)岡山市(マカリアフォーラム)にて開催予定との報告があった。  
2 平成20年度学会賞・研究奨励賞について  
3 平成20年度機関誌「内分泌外科」の編集・発行について  
4 国際学会との協調について  
5 関連学会との協調について  
6 外科系学会社会保険委員会連合(外保連)について

### 5) 平成20年度収支予算の承認

舟橋監事、村井監事の確認承認を得た予算案について高見理事長より支出の部で増えた項目の説明があり承認された。

署名人

佐々木 巖

署名人

園尾博司

## 役員 (2008年6月)

### 理事長

高見 博

### 監 事

小原孝男 舟橋啓臣

### 理 事

伊藤公一 今井常夫 岩瀬克己 郡健二郎  
佐々木巖 清水一雄 杉谷 巖 鈴木眞一  
園尾博司 松田公志 宮内 昭 吉田 明

### 各委員会担当理事( :委員長)

【庶務渉外】 清水一雄 杉谷 巖  
【財務会計】 松田公志 園尾博司  
【人事選挙】 吉田 明 郡健二郎 鈴木眞一  
【教育啓蒙】 今井常夫 宮内 昭  
【医療保険】 佐々木巖 伊藤公一

外保連専門委員:実務 高見 博(鈴木眞一、今井常夫)

:手術 岡本高宏

:検査 伊藤公一

### 編 集(下線は新委員)

\*は会則第18条により任命された常任委員会の委員

高見 博	市川 智彦	伊藤 公一
伊藤 康弘	今井 常夫*	岩瀬 克己
内野 眞也*	大内 憲明*	岡本 高宏
奥山 明彦	小川 利久*	小原 孝男
覚達 健一*	木村 理	河本 泉*
紅林 淳一*	郡 健二郎	酒井 英樹
佐々木 巖	茂松 直之*	芝 英一*
清水 一雄	杉谷 巖	鈴木 眞一*
園尾 博司	土井隆一郎*	野口眞三郎*
原 尚人	福成 信博	舟橋 啓臣
藤森 実*	松田 公志	三村 芳和*
宮内 昭	山下 弘幸*	吉田 明

### 編集顧問

高井新一郎\* 原田 種一\* 藤本 吉秀\*

第21回総会会長 園尾 博司

副会長 松田 公志

## 事務局より

### 入会手続き方法

事務局アドレス:jaes@med.teikyo-u.ac.jpにメールし、入会申込書をご請求下さい。

または、03-3962-2128にFAXをお願いします。

ホームページは<http://jaes.umin.ac.jp/>をご覧ください。なお、異動などにより連絡先が変わられた場合は必ず事務局までご連絡下さい。

### 【年会費】

学会員である資格を維持するには年会費の納入が必要です。会員の皆様には後日、郵便振替用紙を送付いたしますので、よろしくお願い申し上げます。会則第8条により、2年間会費を納入されなかった方は会員の資格を失いますので、ご注意下さい。

事務局：〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1  
帝京大学医学部外科 高見教授室